

〔ハナゴケ科〕

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

全国カテゴリー

〔和名〕ヘラゴケ 〔学名〕 *Glossodium japonicum* Zahlbr.

【摘要】北海道～四国に稀産。山地の針葉樹の朽ちた切り株に生育する特性がある。国外ではサハリンに知られる。本県では秩父山地の山地帯に数ヶ所の記録がある。

【形態の特徴】地衣体は緑色、痂状で基物上に広がる。子器をつけた子柄はへら形で地衣体上に散生する。タ

ムノール酸を含む。

【生育状況】山地の針葉樹の朽ちた切り株に生育。

【減少の要因】森林開発やその他グローバルな環境変化による複合要因。

【特記事項】秩父、三峰山が模式産地。

維管束植物

〔ヘリトリゴケ科〕

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧

全国カテゴリー

〔和名〕モクズゴケモドキ (ヒメカイガラゴケ) 〔学名〕 *Psorula rufonigra* (Tuck.) Gotth.Schneid.

【摘要】本州中部以南から九州にかけて川沿いの河岸の岩上やその間に堆積した砂上に着生。本県では秩父荒川左岸のみに知られる。

【形態の特徴】地衣体は鱗片状で、幅0.2-0.3mmほどの中央部が凹んだ小裂片からなる。表面は汚れた褐色、裏面は黒色で中央部よりやや藍色がかった繊維状の仮

根をつける。子器は黒色、レキデラ型となっている。

【生育状況】川岸の安定した岩上、あるいはその割れ目に堆積した土や砂の上に着生する。

【減少の要因】河川開発やその他グローバルな環境変化による複合要因。

【特記事項】追加種。

蘚苔類

藻

類

〔ムカデゴケ科〕

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧

全国カテゴリー

〔和名〕イトゲジゲジゴケ 〔学名〕 *Heterodermia boryi* (Fee) Kr.P.Singh & S.R.Singh

【摘要】北海道～四国の山地の樹皮や岩石にセン類と混生する。国外では熱帯、亜熱帯に広く分布。本県では秩父山地に稀産。

【形態の特徴】地衣体は灰白色または汚灰色で糸状の裂片は幅0.2-1.5mm、わずかに分枝し、黒色の長さ5-15mmの長い偽根が裂片の縁に沿ってつく。アトラノリン、

ゼオリンを含む。

【生育状況】山地の樹皮、または岩石にセン類と混生。

【減少の要因】森林開発やその他環境変化による複合要因。

【特記事項】追加種。

地衣類

菌

類

〔ムカデゴケ科〕

埼玉カテゴリー 準絶滅危惧

全国カテゴリー

〔和名〕チヂレゲジゲジゴケ 〔学名〕 *Heterodermia dissecta* (Kurok.) D.D.Awasthi

【摘要】本州（関東以南）～九州。平地、山地の岩石にセン類などと混生する。本県では、国外では台湾に知られる。

【形態の特徴】地衣体は灰白色で裏面に皮層がある。微細な裂片や裂芽状の裂片がある。アトラノリン、ゼオ

リン、チセクト酸を含む。

【生育状況】暖地の岩石にセン類と混生。

【減少の要因】森林開発やその他グローバルな環境変化による複合要因。

【特記事項】追加種。

〔ムカデゴケ科〕

埼玉カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

全国カテゴリー

〔和名〕ラッパゲジゲジゴケ

〔学名〕 *Heterodermia hypochraea* (Vain.) Swinscow & Krog (Syn. *Anaptychia hypochraea* Vain.)

【摘要】北海道～九州の山地の岩石（非石灰質）、樹皮に着生。国外では台湾、中国、ヒマラヤに分布する。本県では秩父山地に数ヶ所記録。

【形態の特徴】地衣体は灰白色～灰緑色、葉状で細い裂片は斜上してロゼット様。子器は裂片の先端部に生じ

ラッパ状になる。アトラノリン、ゼオリンを含む。

【生育状況】山地の岩石や樹皮上に着生。

【減少の要因】森林開発やその他グローバルな環境変化による複合要因。

【特記事項】学名変更。カテゴリーを上位に変更。